

## 2014 年度第 2 回日本画像学会技術研究会(通算 121 回)

インクジェット技術部会は『高速インクジェットの現状と今後』 - プロダクション市場での成功の鍵は? -というテーマで、2014 年度第 2 回技術研究会(通算 121 回)を 2014 年 9 月 26 日に発明会館ホールで開催した。参加者は 121 名(会員:89, 非会員:31, 学生:1)であった。

6 月の ICJ2014 においても同じテーマで Work Shop(以下 WS)を開催し、40 名以上の方に参加いただいた。

2008 年の Drupa 以降、Transaction や Production 市場向けに高速インクジェットプリンタが数多く発表され、多くの会社がこの市場に参入している。WS では高速インクジェット市場や技術の現状認識、ディスカッションによる課題の抽出と共有を行い、9 月の本技術研究会ではそれを受け各社の取り組み状況を講演していただくという位置づけにした。技術研究会での講演者と講演テーマを以下に示す。

「デジタル印刷の活用方法について - 市場が求める販促ツールとデジタル印刷 -」

小野 裕二 (電通オンデマンドグラフィック)

「富士フイルムにおける高速・高画質インクジェット枚葉印刷機 (Jet Press720 シリーズ) 開発」

森田 直之 (富士フイルム)

「23"x29.5"サイズ対応インクジェット枚葉印刷機 KM-1 の開発」

小幡 満 (コニカミノルタ)

「富士ゼロックスにおけるインクジェット連帳機商品開発の歴史と今後の展望」

三原 徹 (富士ゼロックス)

「キヤノンの高速連帳インクジェットプリンターのご紹介」

宮崎 進 (キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ)

「高速インクジェットの成功の鍵を握る用紙開発」

名越 応昇 (三菱製紙)

参加者と講演者、あるいは講演者同士での活発な意見交換が行われた。また、各社のプリントサンプル展示も行った。6 月の WS では、「乾燥」「UV インク」「用紙開発」が今後の開発のキーであるとまとめたが、技術研究会ではそれぞれのキーワードをカバーする講演内容となった。さらに技術研究会での議論を通じて、ハードの進化だけでなくデジタルとしての良さを活かした使い方を提供すること、さらにそれに応える技術開発を行うことが今後の成功の鍵になると感じた。

インクジェット技術部会主査:藤井雅彦 (富士ゼロックス)



写真 1 講演風景



写真 2 サンプルギャラリー見学